

カンタとネコ



ねん くみ ()

カンタは、いつものように ともだちの いえから かえって いました。

ふと みちばたをみると、ダンボールが おかれています。なかを のぞきこむと、ちいさな こネコが いました。「すてネコだ。」と カンタは おもいました。

こネコは ちいさな こえで げんきよく「ニャーオ。」と なきます。

なんて かわいいのだろう。こんな ところに いたら、たいへんだ。

そう おもった カンタは、こネコを いえに つれてかえることに しました。

「ただいま。おかあさん、こネコを ひろったよ。ねえ、ネコを かってもいいかな。」

「なにを 知っているの。うちは、イヌの ポンタが いるでしょう。ポンタの おせわも できていないのに、ダメよ。もどしてらっしゃい。」

たしかに、さいきんは ポンタの さんぽも ろくに やっていないので、カンタは いいかえすことが できませんでした。カンタは、こネコを ダンボールに もどしに いき

ました。

^{みっか}3日たっても、まだ ダンボールは おかれたままです。なかには やっぱり、こネコがいます。

「このままだと、こネコは しんでしまうかもしれない。でも、おかあさんは かったら ダメって いうし——。」

カンタは、とほうに くれて しまいました。



カンタは、どうするべきでしょうか。あなたの かんがえと りゆうを かきましよう。

.....

.....

はなしあって かんがえたことを かきましよう。

.....

.....